

3 防犯・防災対策

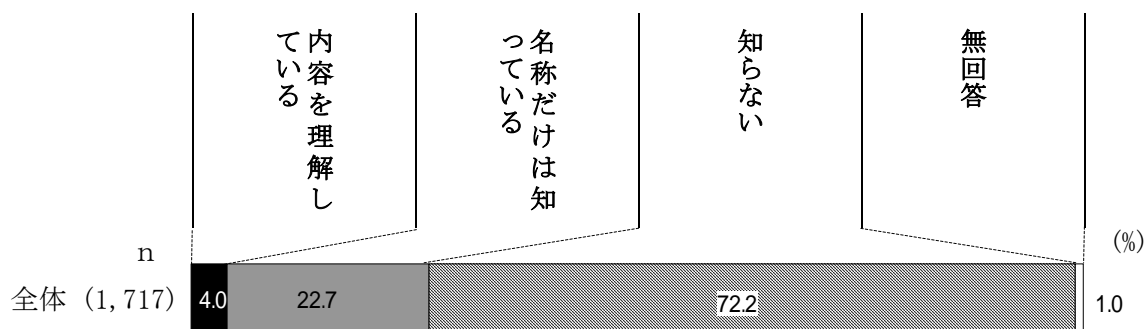
(1) 防犯対策

3-1 「生活の安全・安心に関する条例」の認知状況

「内容を理解」は少数にとどまるものの、《知っている》は2割台半ばを超える

問3 あなたは、「生活の安全・安心に関する条例」を知っていますか。(○は1つだけ)

<図表3-1>防犯対策

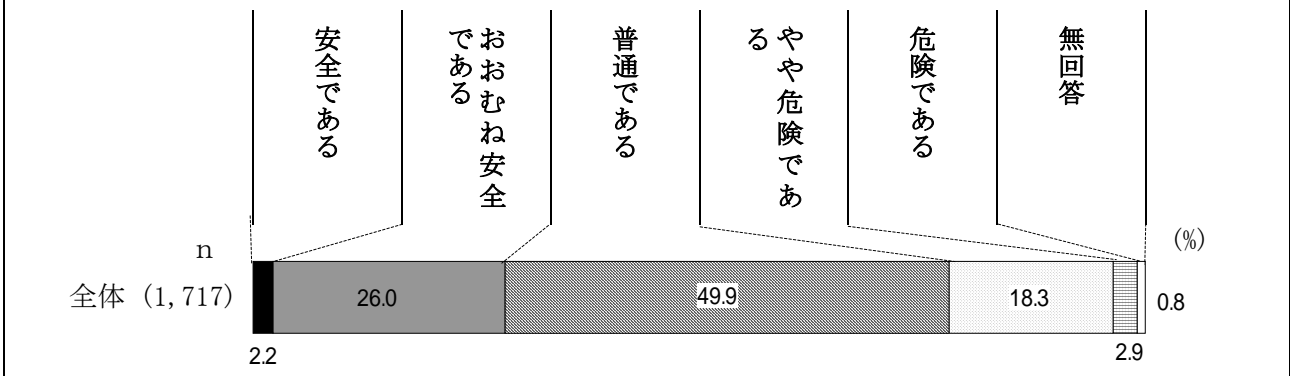


「生活の安全・安心に関する条例」の認知状況としては、「内容を理解している」(4.0%)は少数にとどまるものの、「名称だけは知っている」(22.7%)は2割強で、これらを合算すると、《知っている》(26.7%)は2割台半ばを超えている。一方、「知らない」(72.2%)は7割強となっている。(図表3-1)

《安全である》は約3割。一方、《危険である》は2割

問4 あなたの日常生活における生活環境は安全だと思いますか。(○は1つだけ)

<図表3-2>日常生活における生活環境の安全度



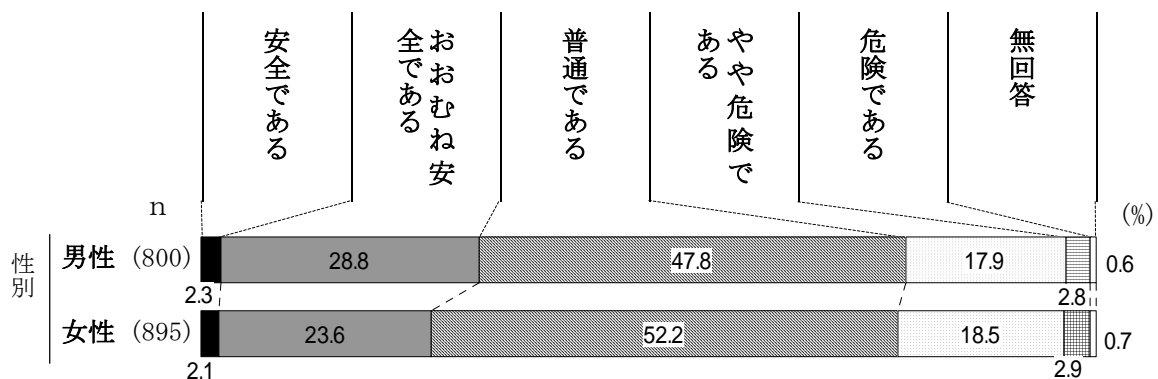
日常生活における生活環境の安全度では、「安全である」(2.2%)は少数にとどまるものの、「おおむね安全である」(26.0%)を合算すると、《安全である》(28.2%)が約3割である。最も高い「普通である」(49.9%)はほぼ半数となっている。一方、「やや危険である」(18.3%)と「危険である」(2.9%)を合算した、《危険である》(21.2%)は2割となる。(図表3-2)

【性別】

性別で最も差が目立つのは、「おおむね安全である」で、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

一方、「普通である」は女性の方が男性よりも4ポイント高くなっている。(図表3-3)

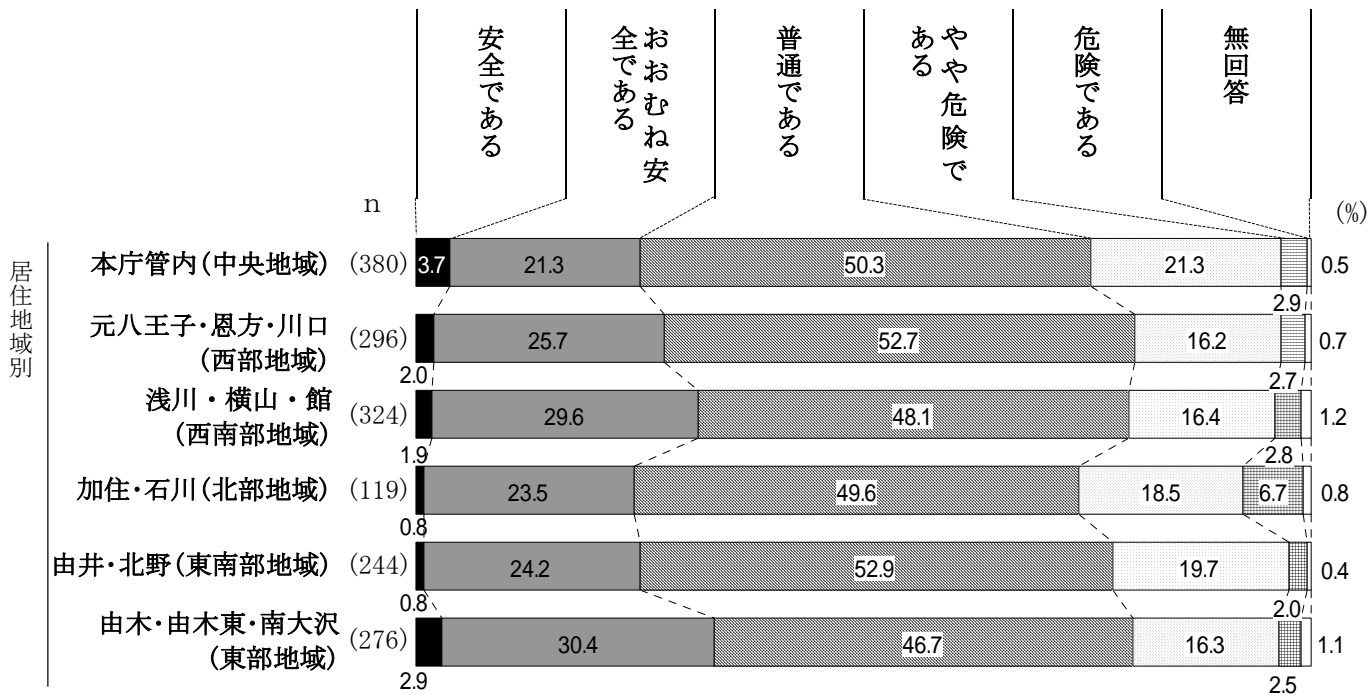
<図表3-3>性別



【居住地域別】

《安全である》は由木・由木東・南大沢（東部地域）と浅川・横山・館（西南部地域）が3割を超え比較的高くなっている。逆に、《危険である》は、加住・石川（北部地域）が4人に1人で最も高く、本庁管内（中央地域）と由井・北野（東南部地域）が2割を超え続く。（図表3-4）

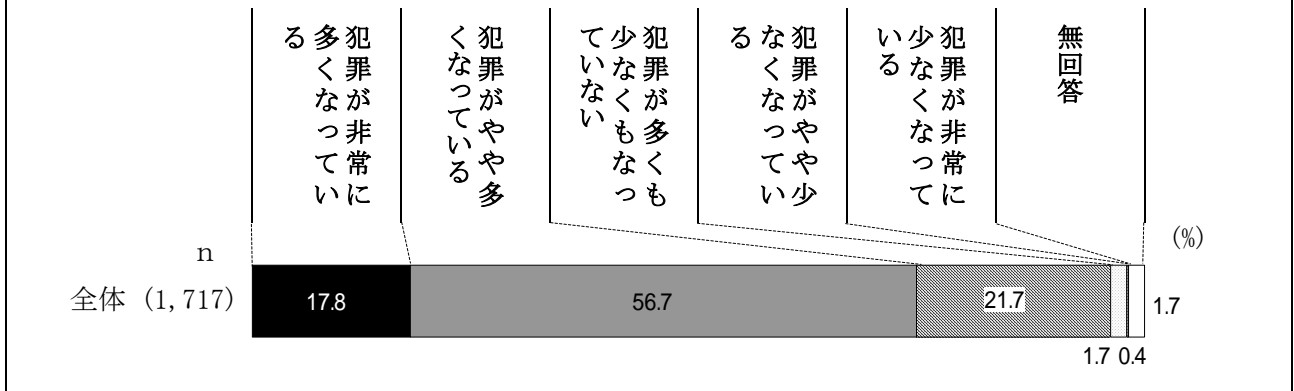
<図表3-4>居住地域別



犯罪が《多くなっている》が4人に3人

問5 あなたは、現在の八王子市の治安状況について、どのように思いますか。(○は1つだけ)

<図表3-5>現在の八王子市の治安状況

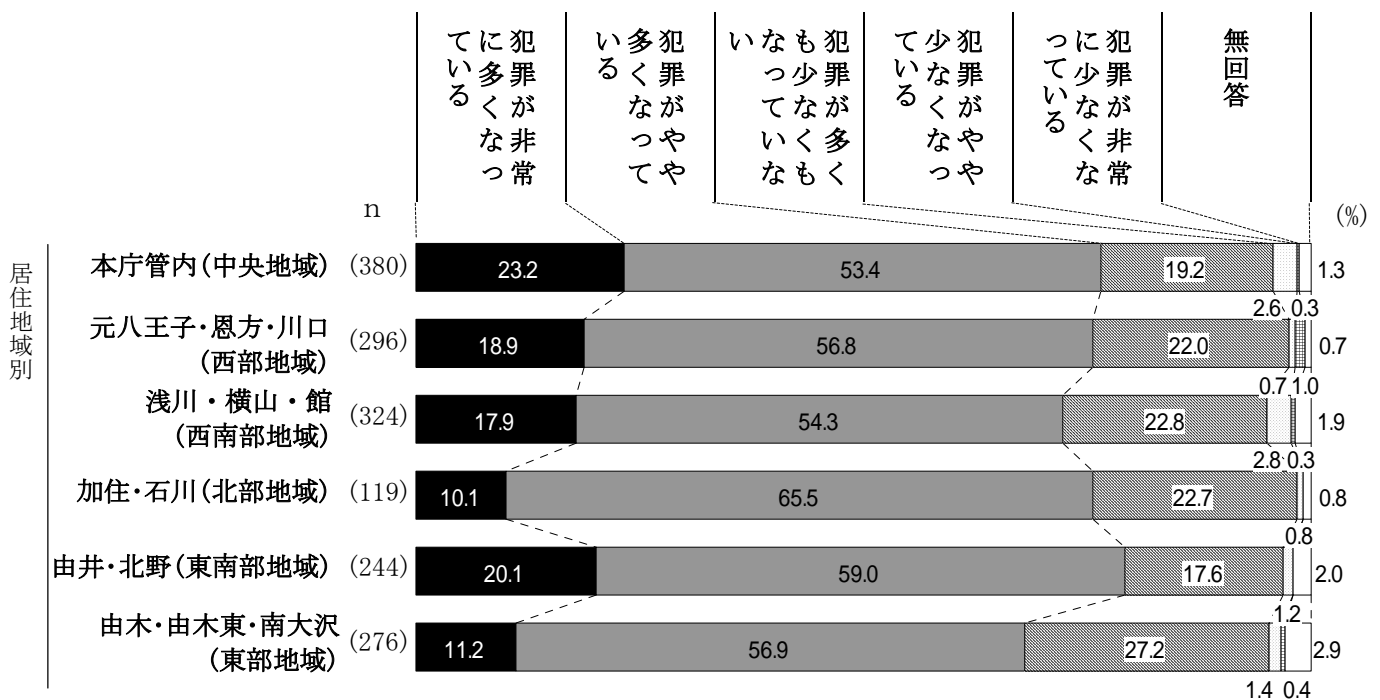


現在の八王子市の治安状況では、「犯罪が非常に多くなっている」(17.8%)が約2割で、最も高いのは「犯罪がやや多くなっている」(56.7%)で過半数である。これら両者を合算すると、「多くなっている」(74.5%)は4人に3人に近い。「犯罪が多くなっても少なくもなっていない」(21.7%)は2割強で、「犯罪がやや少なくなっている」(1.7%)と「犯罪が非常に少なくなっている」(0.4%)を合算した、「少なくなっている」(2.1%)は少数にとどまる。(図表3-5)

【居住地域別】

「犯罪が非常に多くなっている」は本庁管内(中央地域)と由井・北野(東南部地域)が2割台前半で比較的高くなっている。《多くなっている》としてみると、由井・北野(東南部地域)は8割弱で最も高くなる。(図表3-6)

<図表3-6>居住地域別

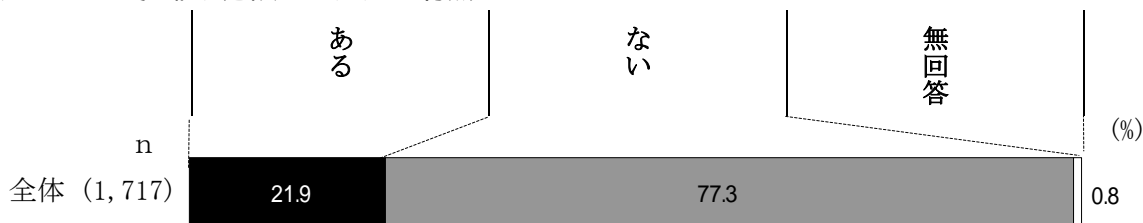


3-4 犯罪や危険との遭遇の有無

「ある」が2割強

問6 あなた自身犯罪に遭ったり、または危険を感じたことはありますか。(○は1つだけ)

<図表3-7> 犯罪や危険との遭遇の有無

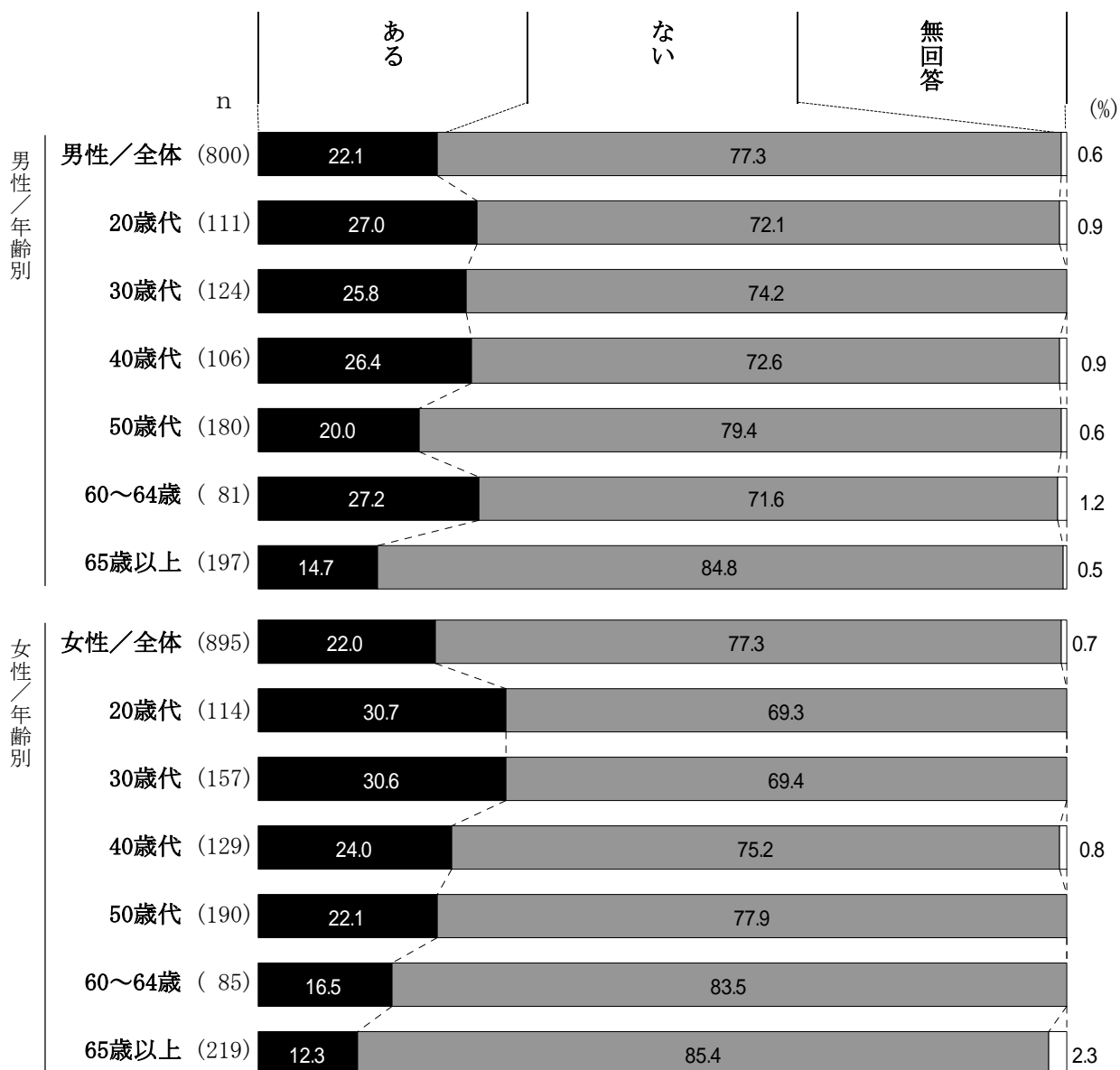


犯罪や危険との遭遇が「ある」(21.9%)は2割強、逆に、「ない」(77.3%)は約8割となっている。(図表3-7)

【性/年齢別】

「ある」が女性の20~30歳代で3割を超え、高くなっていることが分かる。(図表3-8)

<図表3-8> 性/年齢別

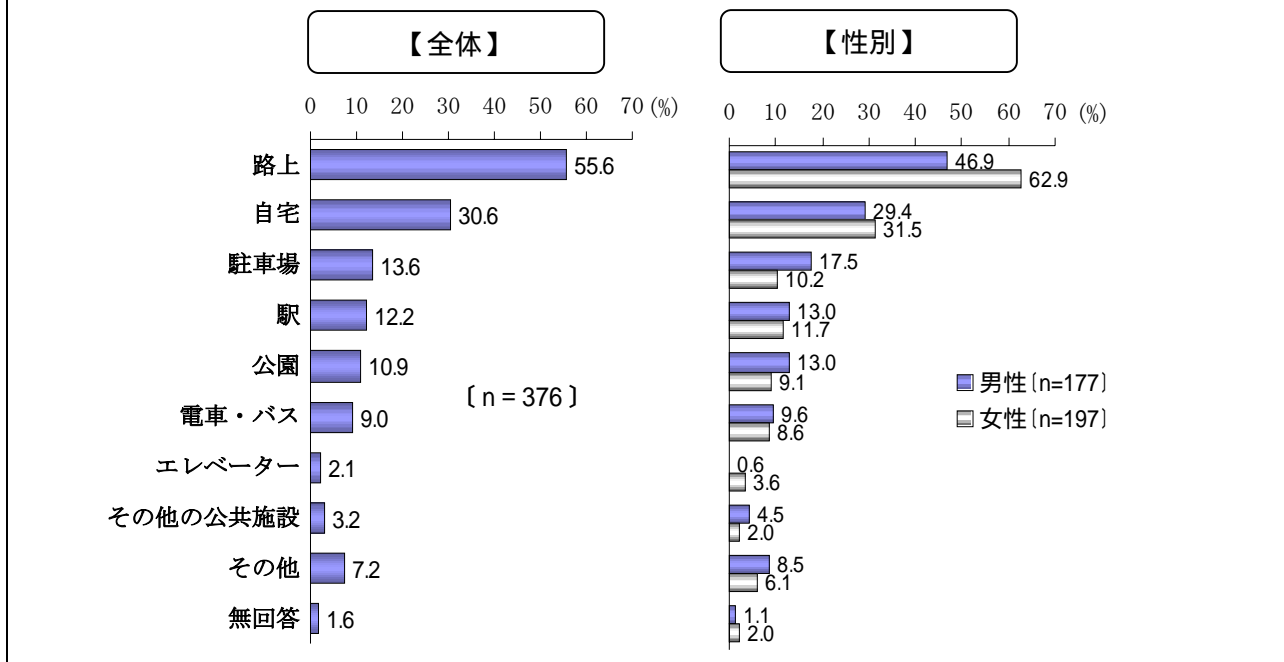


「路上」が過半数で突出

(問6で、「1 ある」とお答えの方に)

問6-1 その場所はどこですか。(〇はいくつでも)

<図表3-9> 犯罪や危険に遭遇した場所 (複数回答)



犯罪や危険に遭遇した場所では、「路上」(55.6%)が最も高く過半数で、次いで、「自宅」(30.6%)が3割強となっている。このほか、「駐車場」(13.6%)と「駅」(12.2%)、「公園」(10.9%)の3項目が1割を超えている。

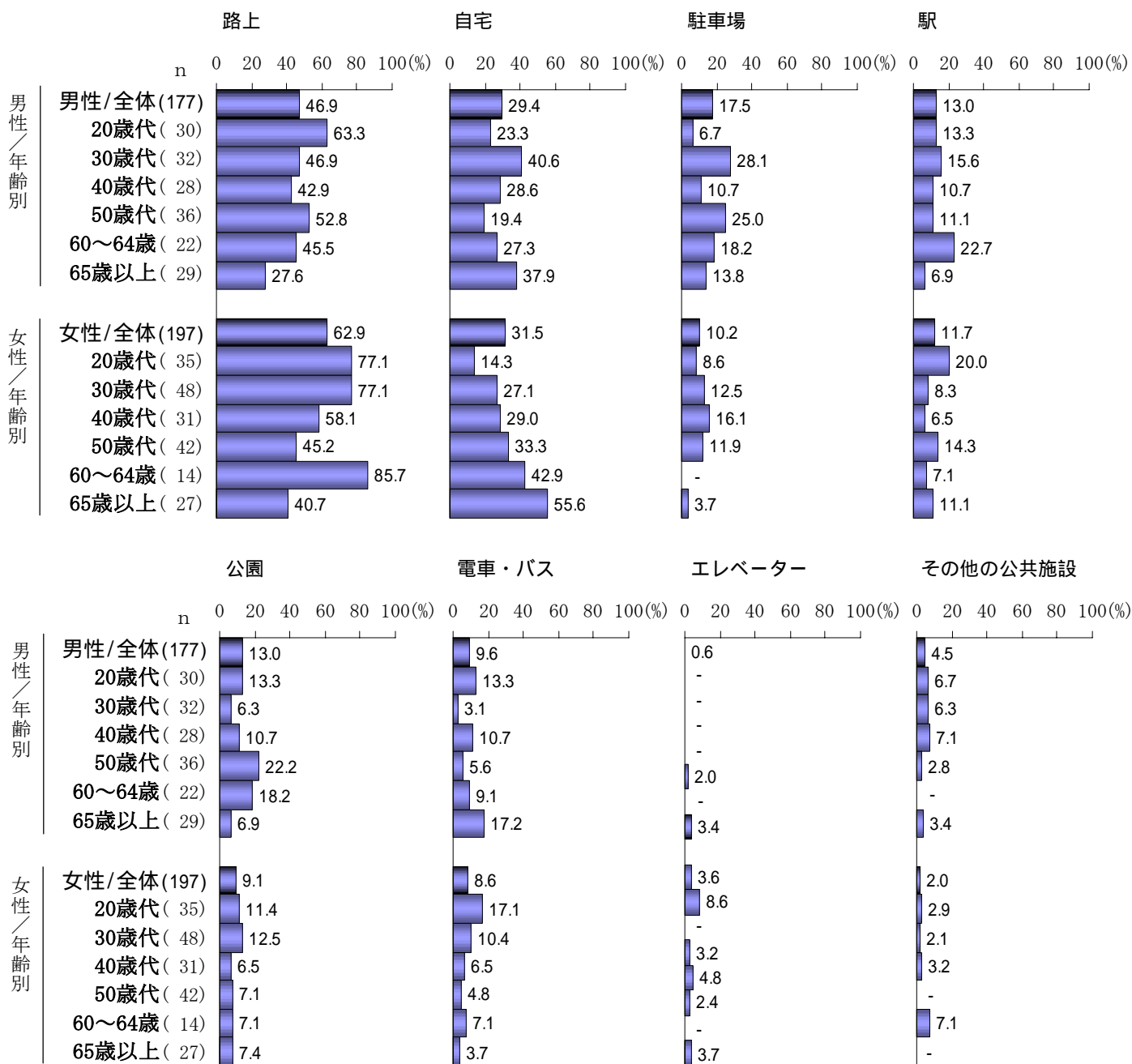
【性別】

「路上」は女性の方が男性よりも16ポイントと大きく差がみられる。逆に、「駐車場」は男性が7ポイント上回る。(図表3-9)

【性 / 年齢別】

「路上」は、男性では20歳代が6割台半ばに近く最も高く、50歳代が半数を超え続く。女性では、20～30歳代が7割台半ばを超え高率である。「自宅」は、女性で年齢が上がるほど漸増しており、65歳以上で半数を超え、「駐車場」は男性の30歳代が約3割で比較的高い。また、「駅」で、男性の60～64歳と女性の20歳代が2割台となっている。(図表3-10)

<図表3-10>性 / 年齢別 (上位8項目)

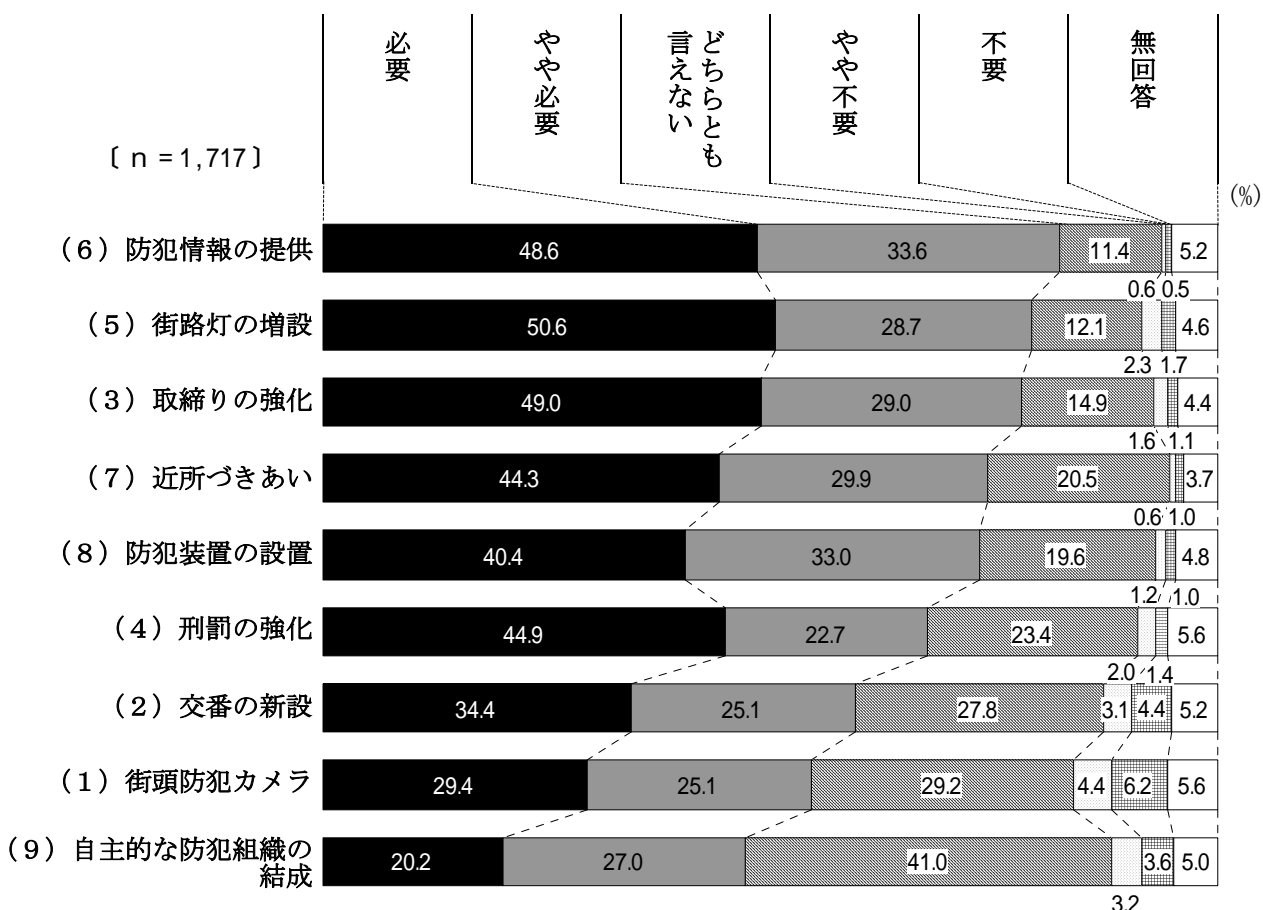


女性の60～64歳はnが少ないため参考までに掲載することとし、文中では触れていない。

必要性が強いのは、“防犯情報の提供”と“街路灯の増設”、“取締りの強化”など

問7 あなたは、防犯対策として、何が必要だと思いますか。(1)～(9)の項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表3-11>防犯対策の必要性



この図表は、「必要」(「必要」+「やや必要」)の比率が高い順に並べ替えている。

防犯対策を9つの項目に分け、それぞれの必要性を聞いた。

「必要」と「やや必要」を合算して《必要》、「やや不要」と「不要」を合算して《不要》と分類し、それぞれの上位5項目を列挙すると次のようになる。

◎ 《必要》

①防犯情報の提供	82.2%
②街路灯の増設	79.3
③取締りの強化	78.0
④近所づきあい	74.2
⑤防犯装置の設置	73.4

× 《不要》

①街頭防犯カメラ	10.6%
②交番の新設	7.5
③自主的な防犯組織の結成	6.8
④街路灯の増設	4.0
⑤刑罰の強化	3.4

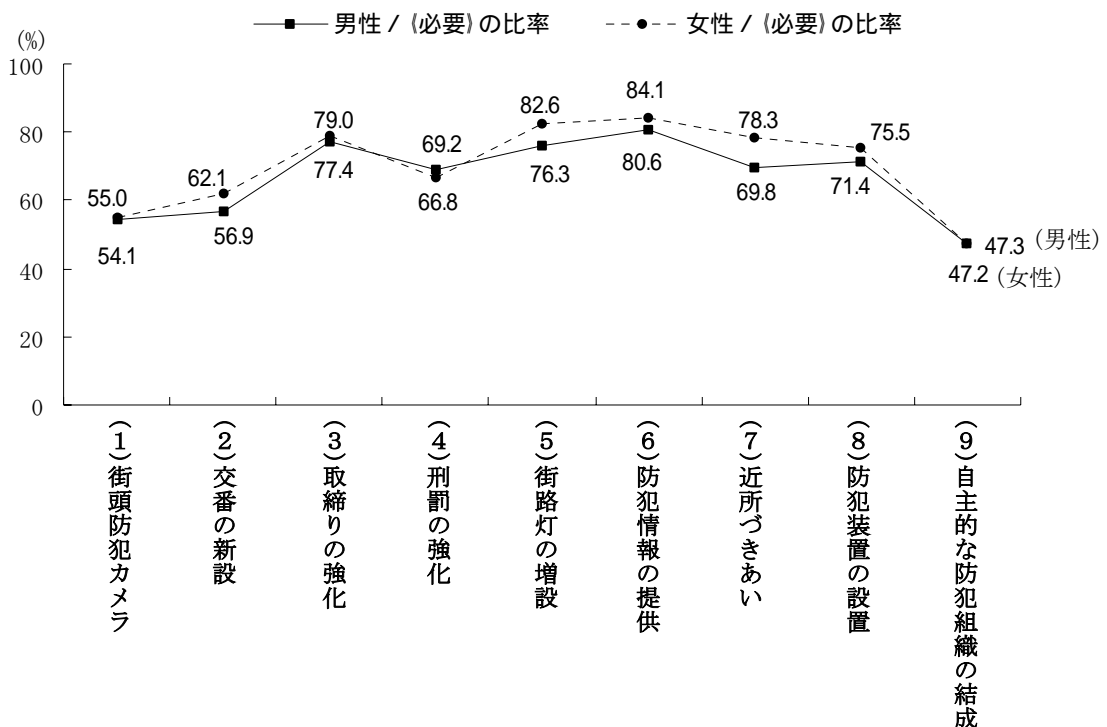
《必要》では、“防犯情報の提供”をはじめ、上位5項目が7割以上であり、また、《不要》では、“街頭防犯カメラ”を除いて、1割を切るなど、対策への必要性が強く求められていることが分かる。(図表3-11)

【性別】

全体では、いずれの項目とも《必要》の比率が高く出ている。そこで、性別については、《必要》の比率だけを抽出し、図示することとした。

「刑罰の強化」を除いた全ての項目で、女性の方が男性よりも《必要》の比率が高くなっている。性別間の差が大きいものには、「近所づきあい」の9ポイント、「街路灯の増設」の6ポイント、「交番の新設」の5ポイント差などがある。(図表3-12)

<図表3-12>性別

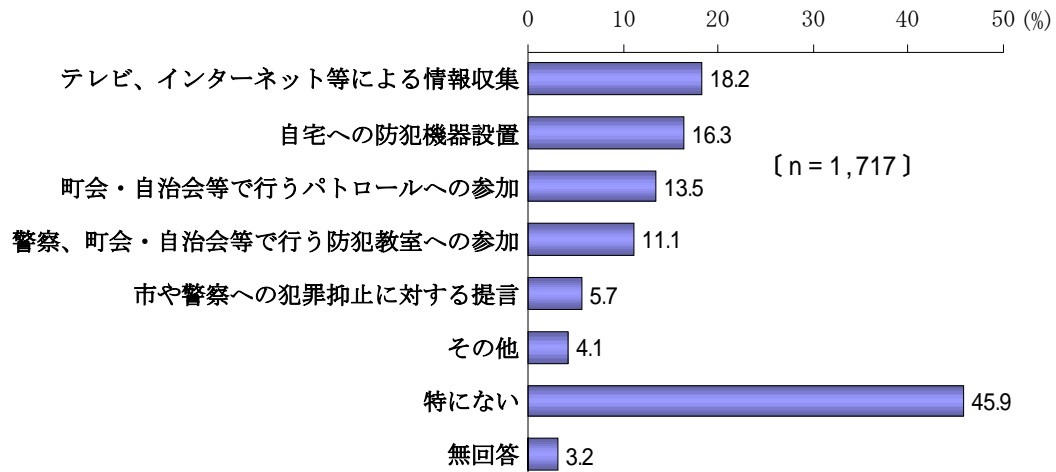


3-7 実行している（していた）防犯対策

「テレビ、インターネット等による情報収集」が約2割あるが、現状では多くが「特にない」

問8 あなたが実行している、または実行したことのある防犯対策はどれですか。（○はいくつでも）

<図表3-13> 実行している（していた）防犯対策（複数回答）

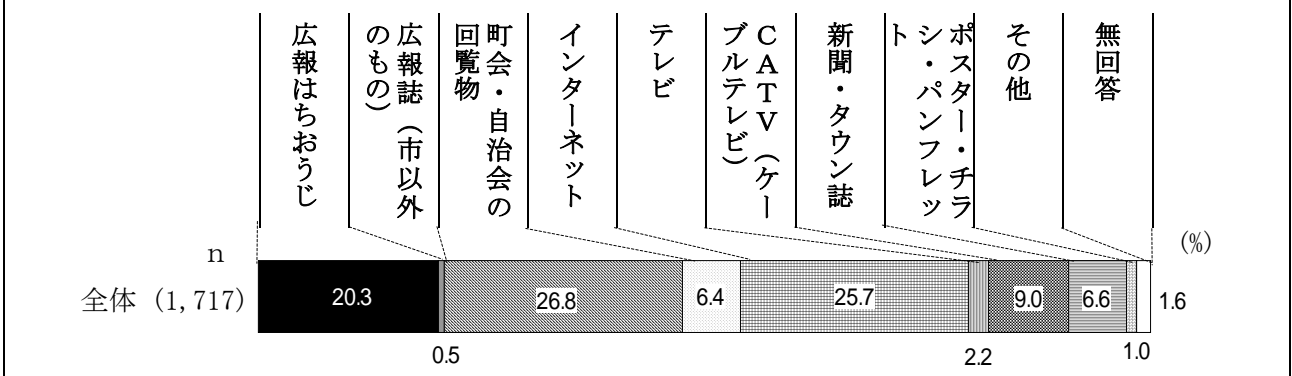


実行している（していた）防犯対策としては、「テレビ、インターネット等による情報収集」（18.2%）が約2割で、「自宅への防犯機器設置」（16.3%）が僅差で続くが、「特にない」（45.9%）が4割台半ばを超え高率である。（図表3-13）

「町会・自治会の回覧物」と「テレビ」が2割台半ばを超えて比較的高い

問9 防犯に関する情報を得たいとき、一番有効だと思う情報媒体はどれですか。(○は1つだけ)

<図表3-14> 防犯情報入手の際、一番有効と思う情報媒体

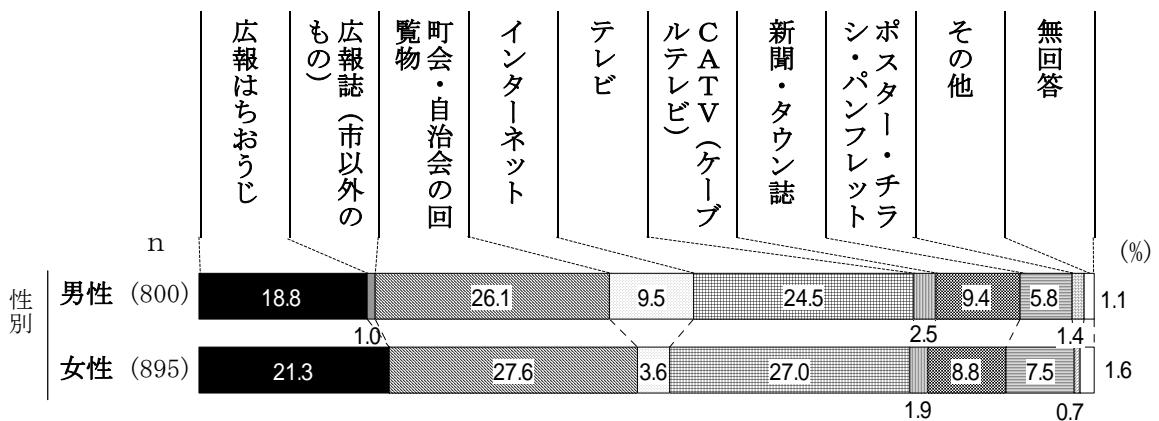


防犯情報入手の際、一番有効と思う情報媒体としては、「町会・自治会の回覧物」(26.8%)と「テレビ」(25.7%)が2割台半ばを超えて比較的高く、これに「広報はちおうじ」(20.3%)が2割を超え続く。(図表3-14)

【性別】

性別で大きな差があるのは「インターネット」で、男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。(図表3-15)

<図表3-15> 性別

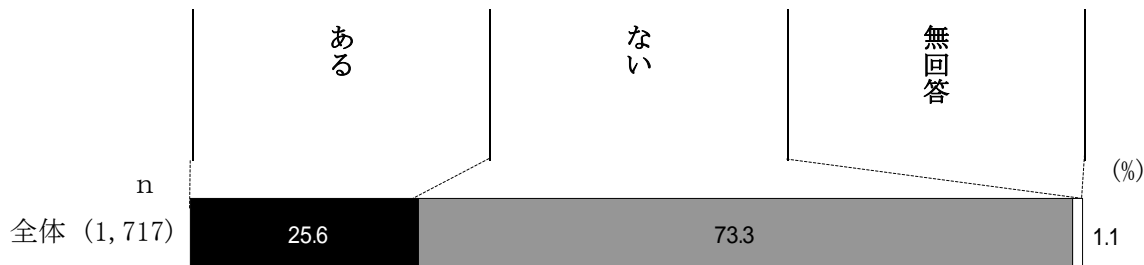


3-9 勧誘行為による迷惑経験の有無

「ある」が4人に1人

問10 JR八王子駅北口周辺におけるつきまとい勧誘行為についておたずねします。
あなたは、つきまとわれて迷惑したことがありますか。(〇は1つだけ)

<図表3-16> 勧誘行為による迷惑経験の有無

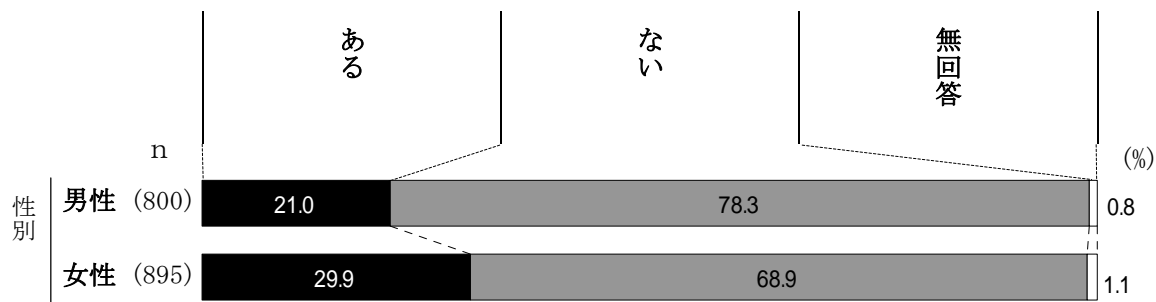


勧誘行為による迷惑経験が「ある」(25.6%)は4人に1人であるのに対して、「ない」(73.3%)がほぼ4人に3人である。(図表3-16)

【性別】

「ある」は女性の方が男性よりも9ポイント、逆に、「ない」は男性の方が9ポイント高率である。(図表3-17)

<図表3-17> 性別

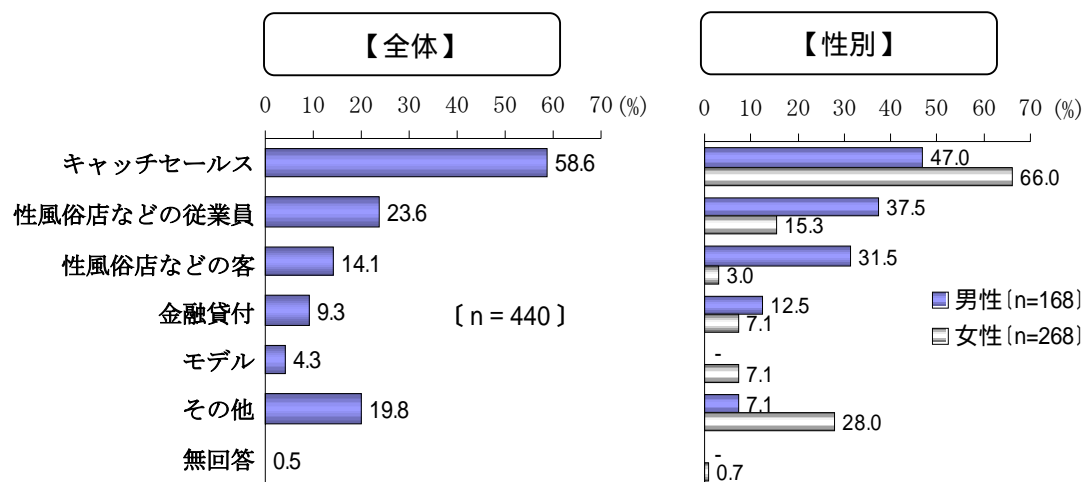


「キャッチセールス」が約6割で突出

(問10で、「1 ある」とお答えの方に)

問10-1 そのときの勧誘の内容は、どのようなものでしたか。(〇はいくつでも)

<図表3-18> 勧誘内容 (複数回答)



問10で、「ある」と回答した人に、その勧誘内容を聞いた。その結果、「キャッチセールス」(58.6%)が突出して約6割となっている。続く、「性風俗店などの従業員」(23.6%)はほぼ4人に1人である。

【性別】

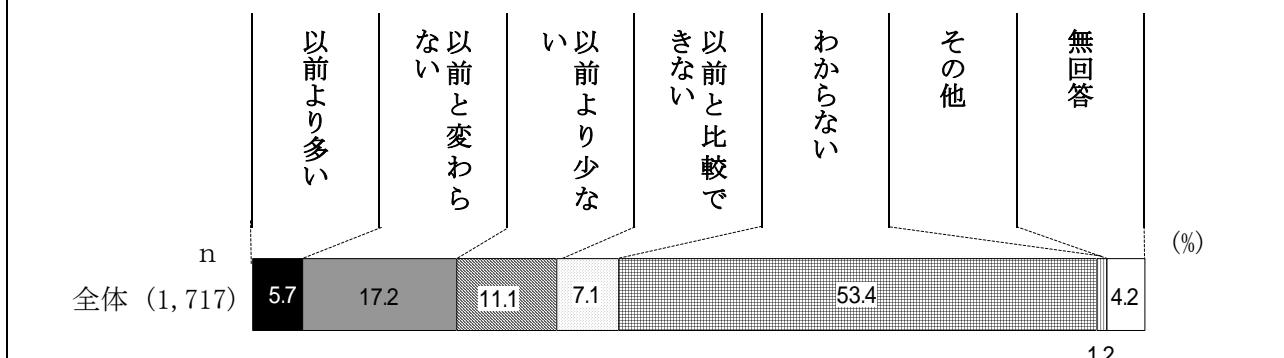
男性の方が女性よりも高いものには、「性風俗店などの客」の29ポイント、「性風俗店などの従業員」の22ポイント、「金融貸付」の5ポイント差などがある。逆に、女性が上回るのは、「キャッチセールス」の19ポイント、「モデル」の7ポイント差などである。(図表3-18)

3-11 現在の勧誘行為についての印象

「以前より多い」が少数ながら存在する。ただし、多くは「わからない」と回答

問11 市では、執ようなつきまとい勧誘行為を排除するために、5月からJR八王子駅北口周辺地域のパトロールを実施しています。現在のつきまとい勧誘行為の印象についてお答えください。
(〇は1つだけ)

<図表3-19>現在の勧誘行為についての印象

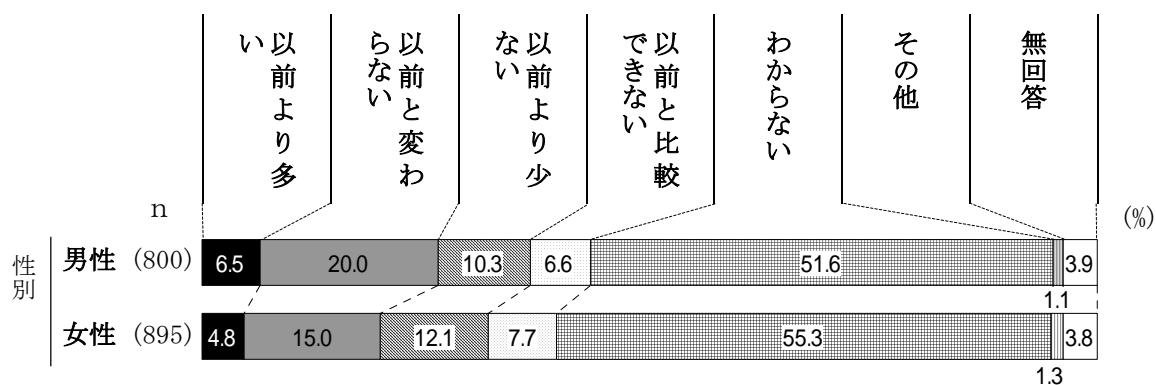


現在の勧誘行為についての印象としては、「以前より多い」(5.7%)が少数おり、「以前と変わらない」(17.2%)が約2割となっている。また、「以前より少ない」(11.1%)が1割強で、多くは「わからない」(53.4%)としている。(図表3-19)

【性別】

「以前と変わらない」で男性の方が女性よりも5ポイント高く、他の項目に比べ違いがみられる。(図表3-20)

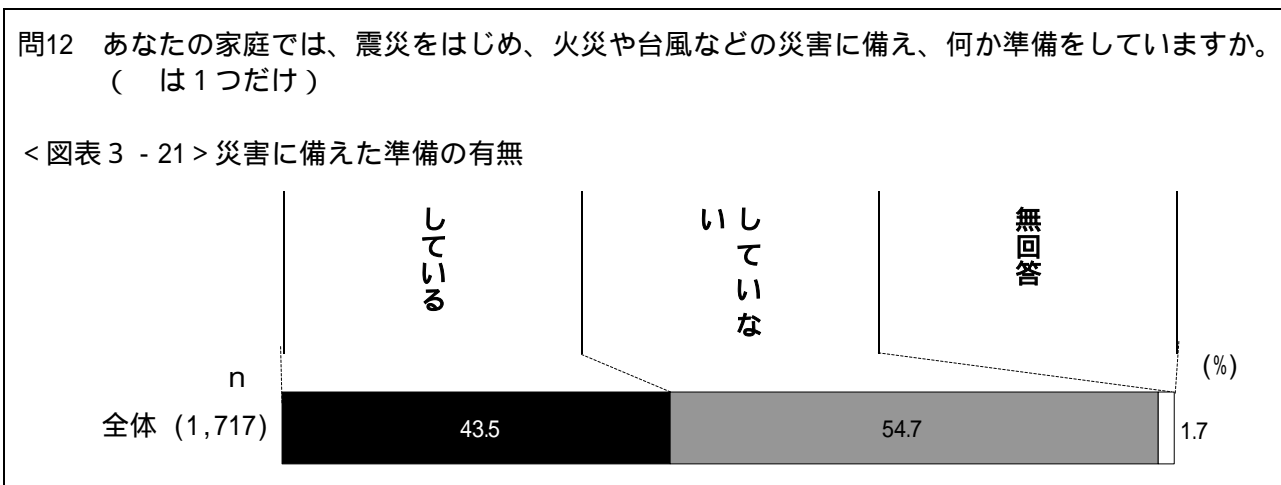
<図表3-20>性別



(2) 防災対策

3 - 12 災害に備えた準備の有無

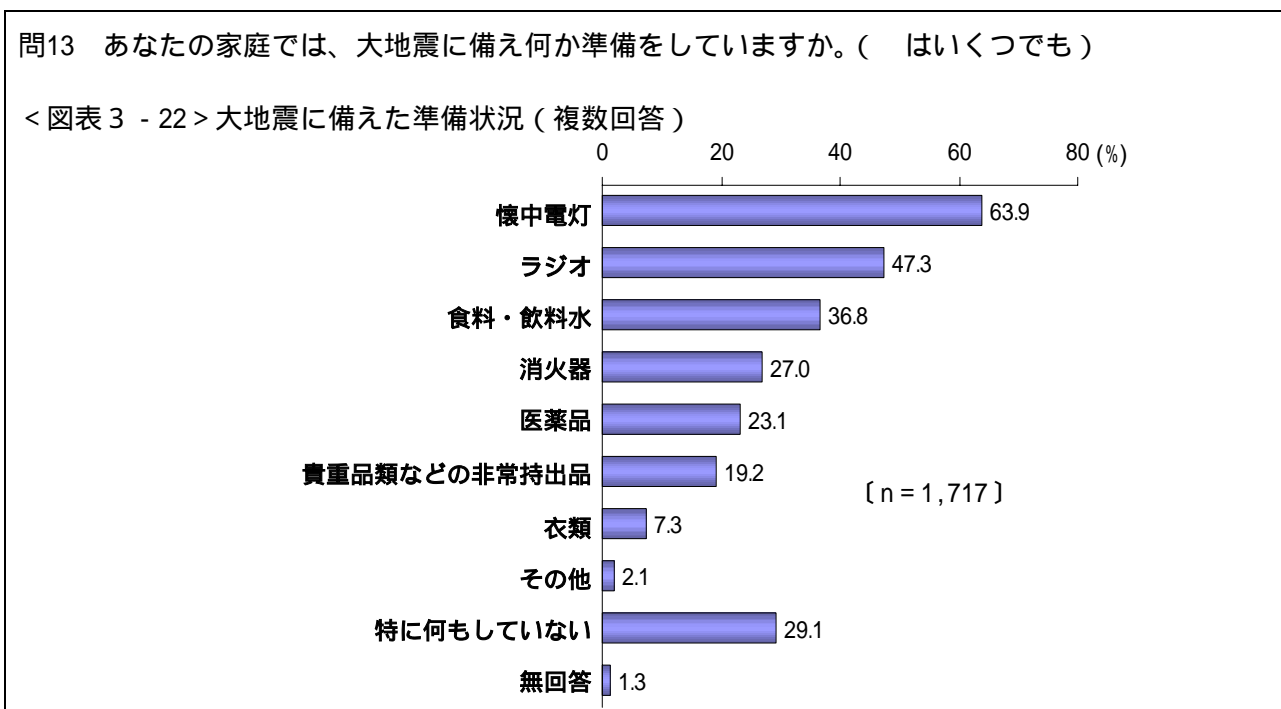
「している」よりも「していない」が半数を超え多い



災害に備えた準備を「している」(43.5%)は4割台半ばに近いが、「していない」(54.7%)の方が半数を超え多くなっている。(図表3 - 21)

3 - 13 大地震に備えた準備状況

「懐中電灯」が6割台半ばに近くトップ。続く、「ラジオ」は半数に近い



大地震に備えた準備状況としては、「懐中電灯」(63.9%)が6割台半ばに近く最も高い。以下、「ラジオ」(47.3%)「食料・飲料水」(36.8%)「消火器」(27.0%)などが続く。しかしながら、その一方で「特に何もしていない」(29.1%)との回答も3割弱と比較的高い。(図表3 - 22)

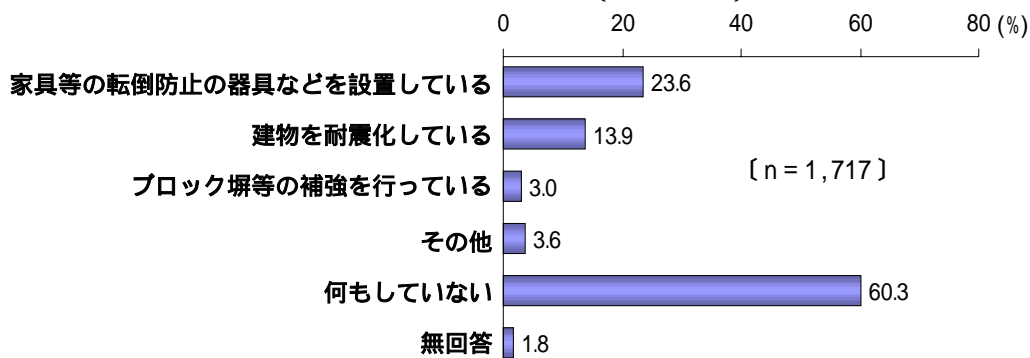
3 - 14 建物倒壊防止や家具の転倒防止策の有無

「家具等の転倒防止の器具などを設置」がほぼ4人に1人いるが、多くは「何もしていない」

問14 阪神・淡路大震災では、死亡被災者の約9割が建物倒壊や家具等の転倒による圧死が原因でした。

あなたの家庭では、建物倒壊防止や家具の転倒防止策を行っていますか。(はいいくつでも)

<図表3 - 23> 建物倒壊防止や家具の転倒防止策の有無(複数回答)

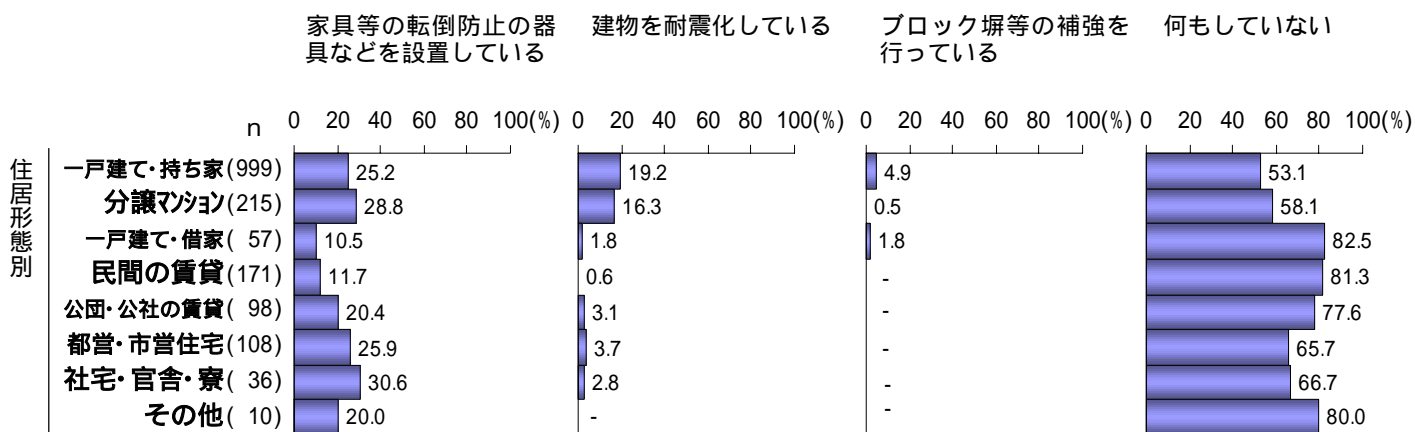


建物倒壊防止や家具の転倒防止策の有無では、「家具等の転倒防止の器具などを設置している」(23.6%)がほぼ4人に1人いるものの、「何もしていない」(60.3%)が6割を超え高くなっている。(図表3 - 23)

【住居形態別】

「家具等の転倒防止の器具などを設置している」は社宅・官舎・寮に住んでいる世帯が3割を超え、次いで、分譲マンションが約3割となっている。「建物を耐震化している」は、一戸建て・持ち家と分譲マンションのような自己所有している世帯で1割台後半である。また、「何もしていない」は一戸建て・借家と民間の賃貸が8割を超え高くなっている。(図表3 - 24)

<図表3 - 24> 住居形態別(上位3項目+「何もしていない」)

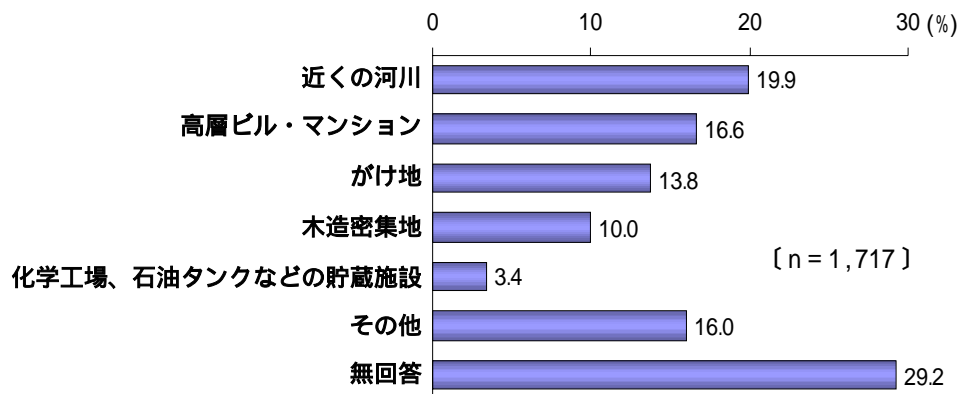


3 - 15 自宅周辺の危険な場所の有無

「近くの河川」が2割弱でトップ

問15 あなたの家庭周辺には、危険だと思う場所がありますか。(はいいくつでも)

<図表3 - 25> 自宅周辺の危険な場所の有無(複数回答)



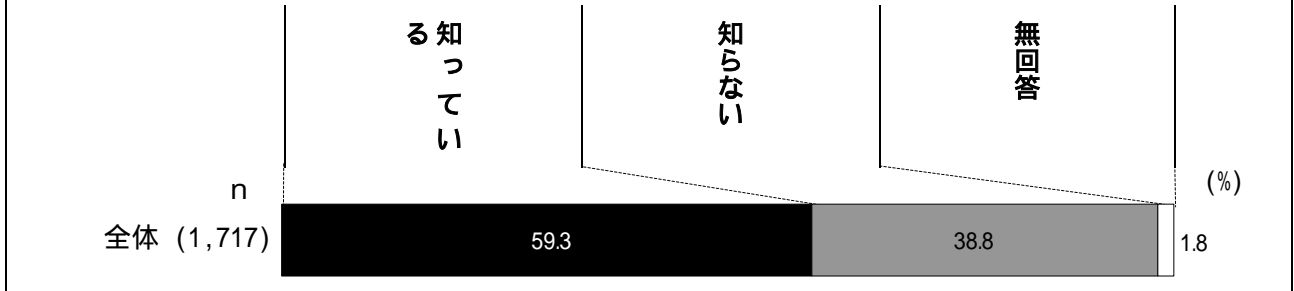
自宅周辺の危険な場所としては、「近くの河川」(19.9%)が2割弱で最も高く、僅差で「高層ビル・マンション」(16.6%)が続く。(図表3 - 25)

3 - 16 居住地域の避難場所の認知度

「知っている」は6割弱

問16 市では、平成9年度に全市の避難場所を掲載した防災マップを各戸に配布しました。あなたは、お住まいの地域の避難場所を知っていますか。(は1つだけ)

<図表3 - 26> 居住地域の避難場所の認知度

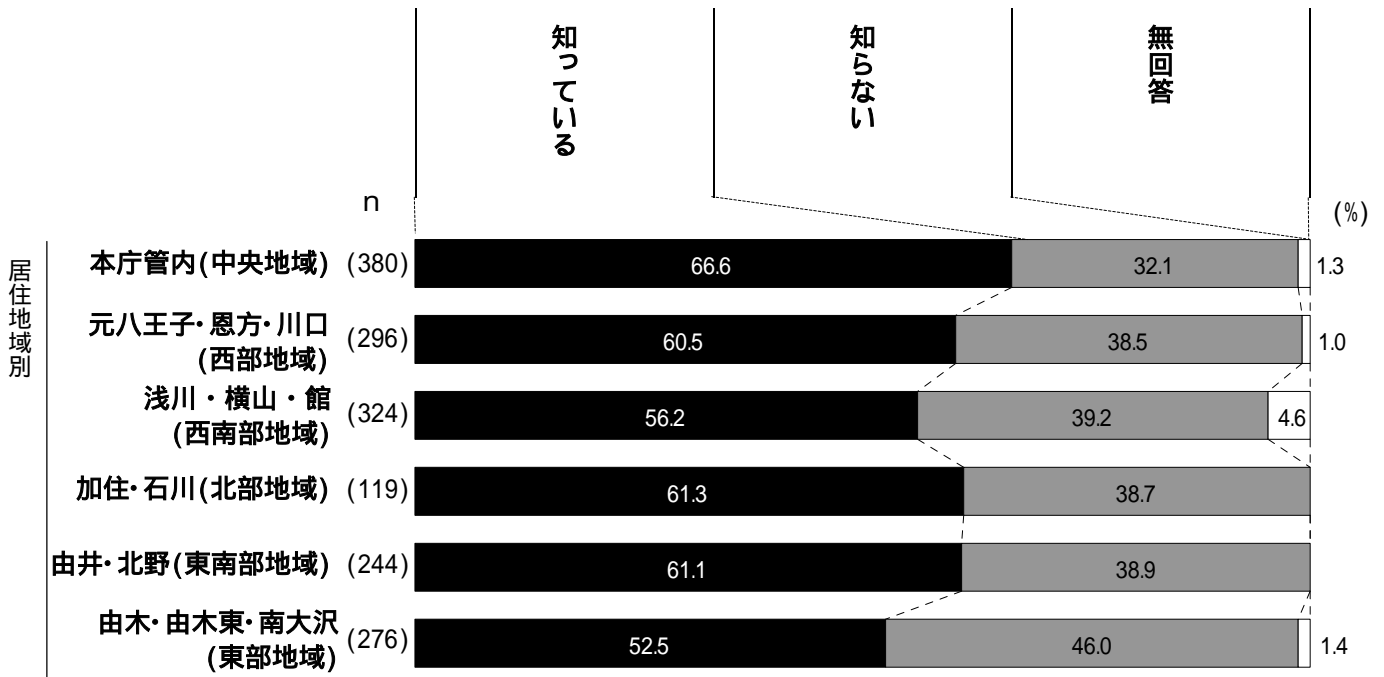


居住地域の避難場所を「知っている」(59.3%)は6割弱と多いが、「知らない」(38.8%)が約4割いる。(図表3 - 26)

【居住地域別】

「知っている」は本庁管内(中央地域)が最も高く3人に2人で、浅川・横山・館(西南部地域)と由木・由木東・南大沢(東部地域)は5割台に留まる。逆に、「知らない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)が4割台半ばを超え高い。(図表3 - 27)

<図表3 - 27> 居住地域別



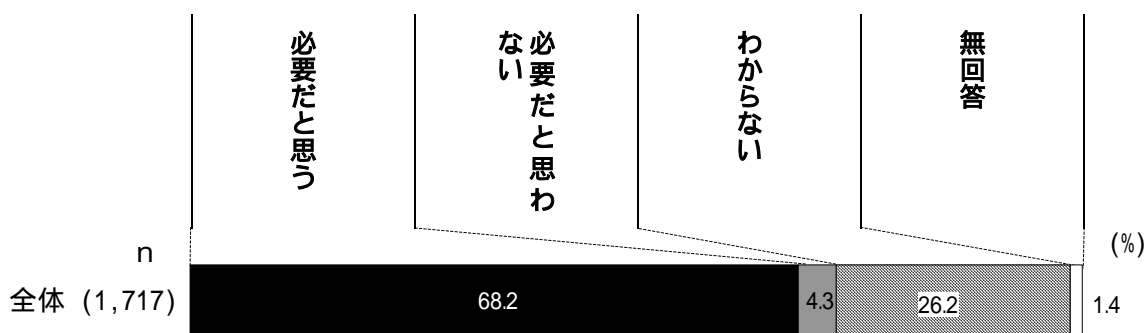
(3) 自主防災組織

3 - 17 自主防災組織の必要性

「必要だと思う」が約7割

問17 あなたは、自主防災組織は必要だと思いますか。(は1つだけ)

<図表3 - 28> 自主防災組織の必要性



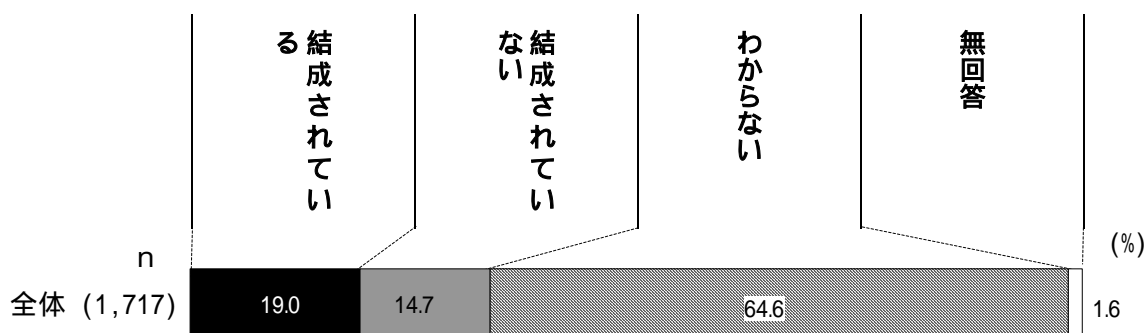
自主防災組織の必要性としては、「必要だと思う」(68.2%)が約7割で最も高く、「必要だと思わない」(4.3%)を大きく上回る。ただ、「わからない」(26.2%)との回答が、2割台半ばを超える。(図表3 - 28)

3 - 18 自主防災組織の結成状況

「結成されている」が2割弱いるも、多くは「わからない」と回答

問18 市では、自主防災組織づくりをすすめています。あなたのお住まいの地域の町会・自治会では、自主防災組織は組織されていますか。(は1つだけ)

<図表3 - 29> 自主防災組織の結成状況



自主防災組織の結成状況では、「結成されている」(19.0%)が2割弱で、「結成されていない」(14.7%)は1割台半ばに近い。多くは、「わからない」(64.6%)としている。(図表3 - 29)

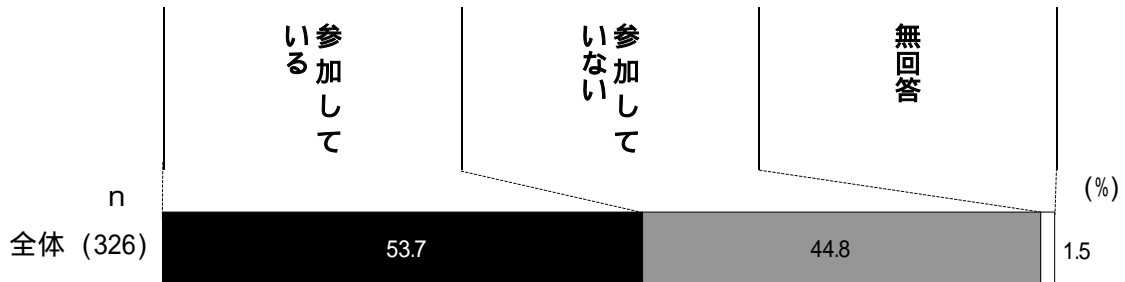
3 - 19 自主防災組織への参加の有無

「参加している」が半数を超える

(問18で、「1 結成されている」とお答えの方に)

問18 - 1 あなたは、お住まいの町会・自治会の自主防災組織に参加していますか。(は1つだけ)

<図表3 - 30> 自主防災組織への参加の有無

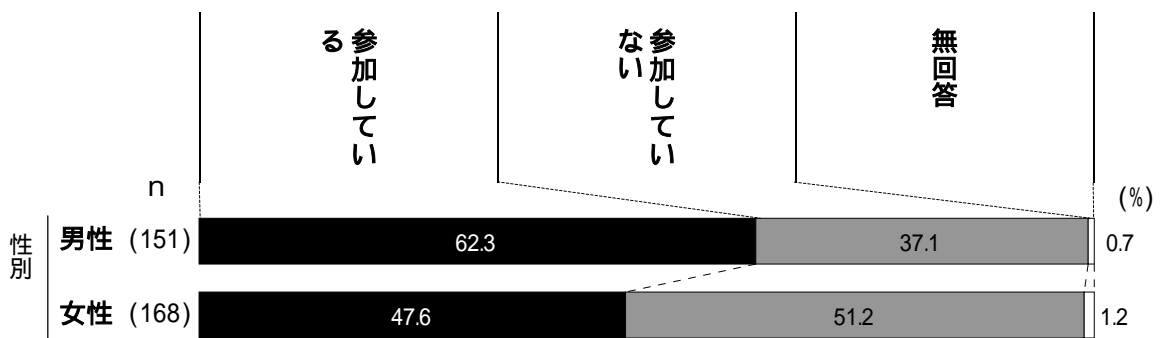


問18で、「結成されている」と答えた人の中で、自主防災組織へ「参加している」(53.7%)は半数を超え、「参加していない」(44.8%)を上回っている。(図表3 - 30)

【性別】

「参加している」は男性の方が女性よりも15ポイント高くなっている。逆に、「参加していない」は女性の方が14ポイント高率である。(図表3 - 31)

<図表3 - 31> 性別



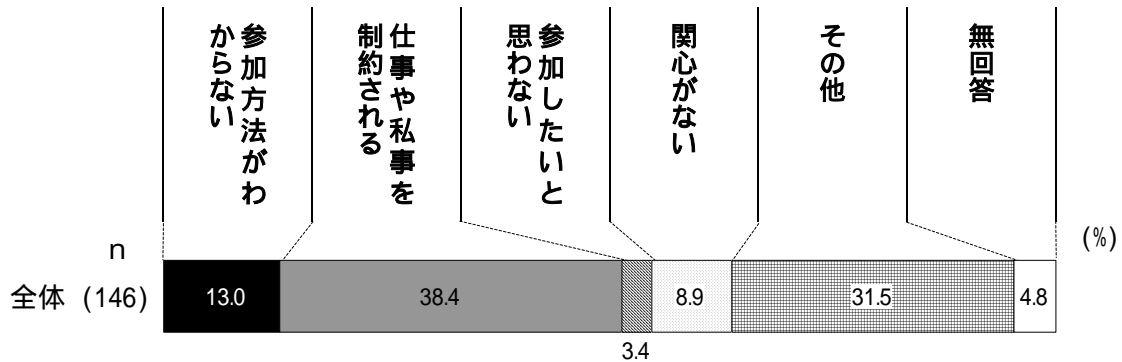
3 - 20 自主防災組織に参加していない理由

「仕事や私事を制約される」が最も高く約4割

(問18-1で、「2 参加していない」とお答えの方に)

問18-1-1 自主防災組織に参加しない主な理由は次のどれですか。(は1つだけ)

<図表3-32> 自主防災組織に参加していない理由

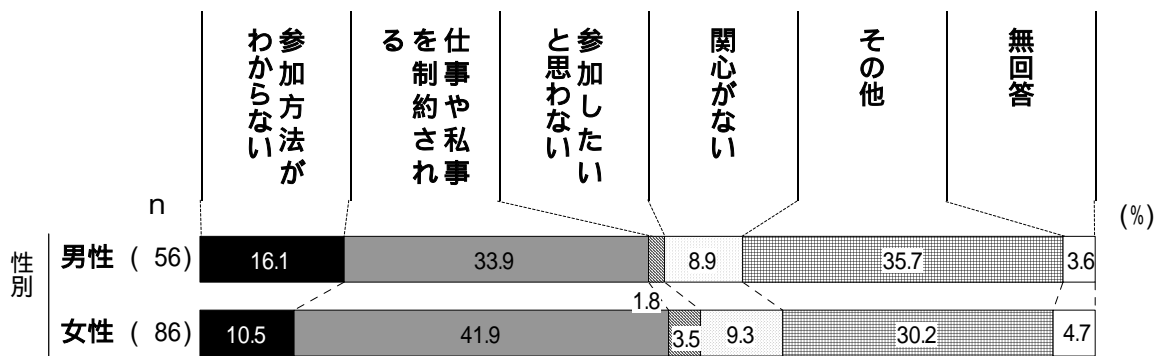


問18-1で、自主防災組織に参加していない理由としては、「仕事や私事を制約される」(38.4%)が約4割で最も高くなっている。続く、「参加方法がわからない」(13.0%)は1割を超える。(図表3-32)

【性別】

性別で差が目立つのは、「参加方法がわからない」は男性の方が女性よりも6ポイント高く、「仕事や私事を制約される」は女性が8ポイント上回る。(図表3-33)

<図表3-33> 性別

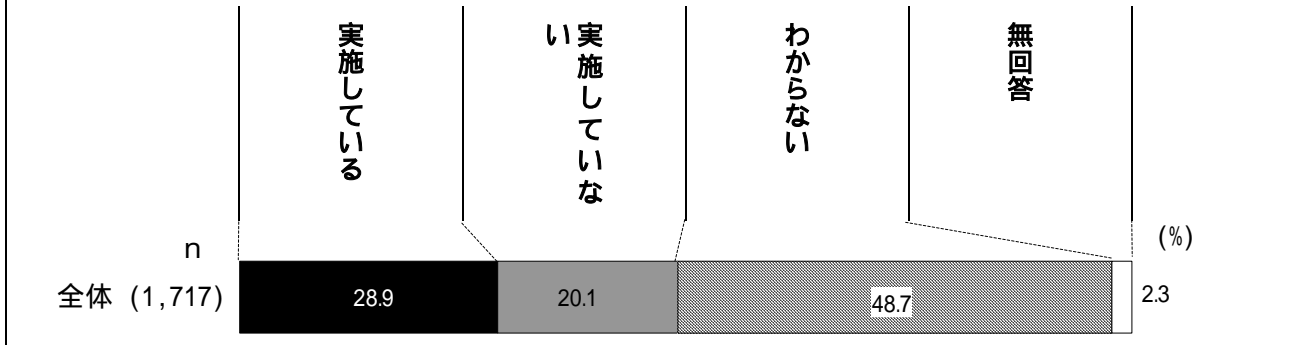


3 - 21 自主防災組織や町会・自治会での防災訓練の実施状況

「実施している」は約3割。ただし、「わからない」がほぼ半数いる

問19 あなたのお住まいの地域の自主防災組織や町会・自治会では防災訓練を実施していますか。
(は1つだけ)

<図表3 - 34> 自主防災組織や町会・自治会での防災訓練の実施状況

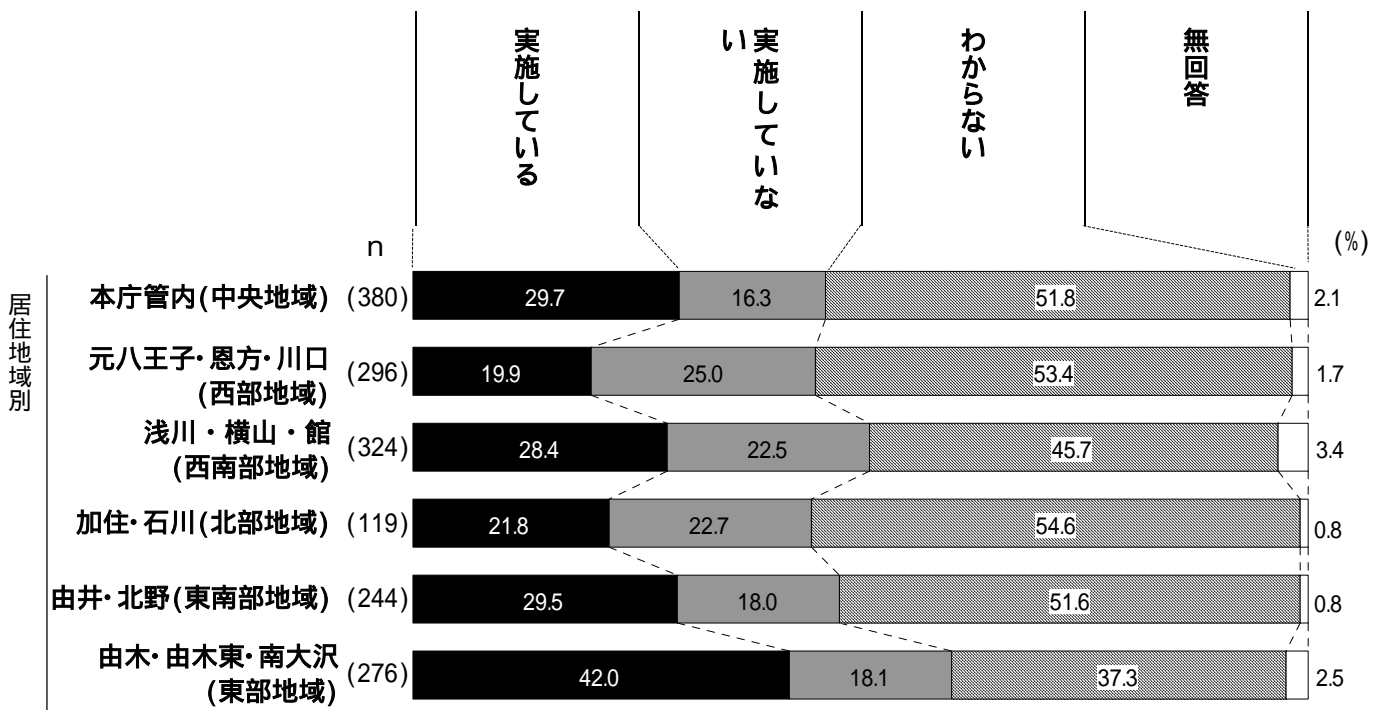


自主防災組織や町会・自治会での防災訓練を「実施している」(28.9%)が約3割で、「実施していない」(20.1%)を上回るが、「わからない」(48.7%)がほぼ半数と多い。(図表3 - 34)

【居住地域別】

「実施している」は、由木・由木東・南大沢(東部地域)が4割を超え、他の居住地域に比べて突出して高くなっている。逆に、「実施していない」は、元八王子・恩方・川口(西部地域) 浅川・横山・館(西南部地域) 加住・石川(北部地域)の3地域で2割台となっている。(図表3 - 35)

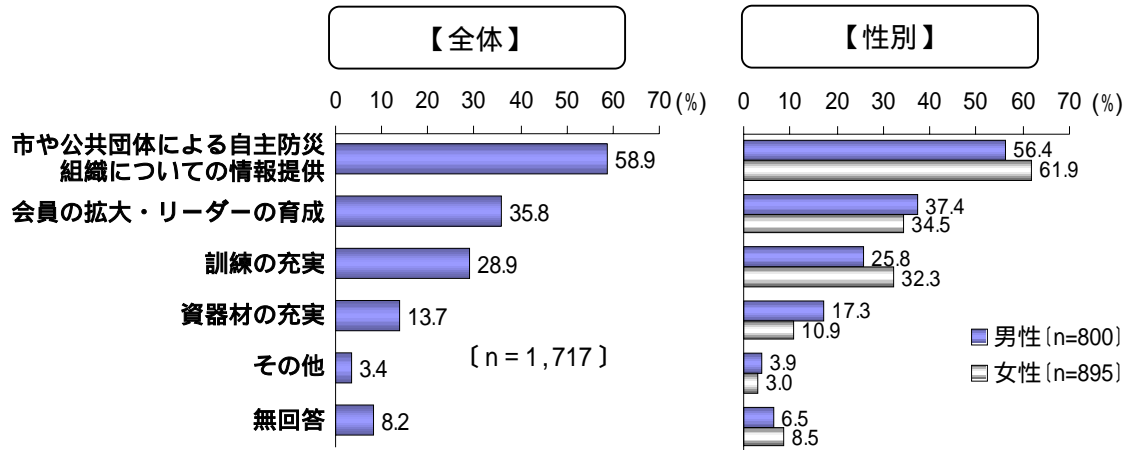
<図表3 - 35> 居住地域別



「市や公共団体による自主防災組織についての情報提供」が6割弱で突出

問20 自主防災組織が活発な活動を行うには何が必要と思いますか。(は2つまで)

<図表3 - 36> 自主防災組織の活動に必要なこと(複数回答)



自主防災組織の活動に必要なこととしては、「市や公共団体による自主防災組織についての情報提供」(58.9%)が6割弱で突出する。以下、「会員の拡大・リーダーの育成」(35.8%)、「訓練の充実」(28.9%)と続く。

【性別】

「訓練の充実」は女性の方が男性よりも7ポイント高く、「市や公共団体による自主防災組織についての情報提供」でも6ポイント上回る。逆に、男性は「資器材の充実」で女性よりも6ポイント高くなっている。(図表3 - 36)